

# 第4次静岡市食育推進計画（R6～R12）【概要版】（案）

## 第1章 計画の基本的な考え方

### 【計画策定の趣旨】

少子高齢化の進行に伴い超高齢化社会を迎え、誰もが健康で長く活躍できる社会の実現が期待されるようになりました。一方、食に関する価値観やライフスタイルの多様化が進むにつれ、簡便な食事や不規則な食生活などに起因すると考えられる生活習慣病が増加するなど、解決すべき新たな課題が生じています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、身体活動等の大幅な制限、それに伴う心身への悪影響に加え、食の安全や食品ロスの問題など食を取り巻く環境が大きく変化するとともに、食育への期待はますます高まっています。

「新たな日常」に対応した食育の推進、食品ロス削減等、また自然に健康になれる食環境づくりなど、食に関する新たな課題に対応するため、第4次食育推進計画を策定します。

### 【計画の位置づけ】

- 「食育基本法」第18条第1項目に基づき、国の計画と整合性を図りながら策定する市町村計画
- 「第4次静岡市総合計画」「静岡市健康爛漫計画（第3次）」など関連計画との整合性を図り、策定
- 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献  
⇒ SDGsの達成には食育の取組が不可欠である



### 【計画の期間】

令和6年度から令和12年度までの7年間

### 【国の動向】

- ◆第4次食育推進基本計画（R3～R7）の3つの重点事項
  - ①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
  - ②持続可能な食を支える食育の推進
  - ③「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

SDGsの観点から相互に連携して総合的に推進

## 第2章 食をめぐる現状と課題

【計画の達成状況（悪化している指標（D評価）を抜粋）】

指標名	第3次策定時	現状値	目標値
食育に関心を持つ若い世代の割合	78.7%	58.7%	85%以上
主食・主菜・副菜を組合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合	43.2%*	34.9%	55%以上
主食・主菜・副菜を組合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	57.7%*	49.3%	70%以上
毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合	81.0%	66.8%	85%以上
地元（静岡市）に生産された物を日頃から購入するようにしている市民の割合	23.6%	21.0%	30%以上
農林漁業体験をしたことがある市民の割合	34.3%	31.9%	40%以上
茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合	53.3%	40.8%	60%以上

\*は国の第3次食育推進基本計画より

第4次食育推進計画の策定に向けた課題

- 栄養バランスへの配慮、規則正しい食生活の実施
- 若い世代の食に対する興味・関心の喚起
- 食の継承や地産地消、環境配慮などの持続可能性

## 第3章 基本理念と計画の視点

### （1）基本理念

食で「しずおかのつながり」を深め、未来の健康を育もう

～みんなでおいしく食べて、元気あふれるまちづくり～

⇒静岡のおいしい食材を中心に、それぞれが楽しみながら味わい、健全な食生活とともに食を大切にする、心豊かな人間性を育むことを目指します。

### （2）基本方針

#### ①誰もが生涯健康で心豊かな食生活の実現

⇒生活習慣病や低栄養予防に向け、栄養バランスの整った食事や減塩、野菜・果物の摂取等について取組みます。

#### ②若い世代が食を楽しみ、食の大切さを知る食育の推進

⇒若い世代が抱える食に関する課題（栄養バランス・野菜不足・共食・女性のやせ等）は他の年代と比べると多い傾向にあります。静岡市の未来を担う若い世代が中心となり、健全な食生活等を次世代へ継承していけるように取組みます。

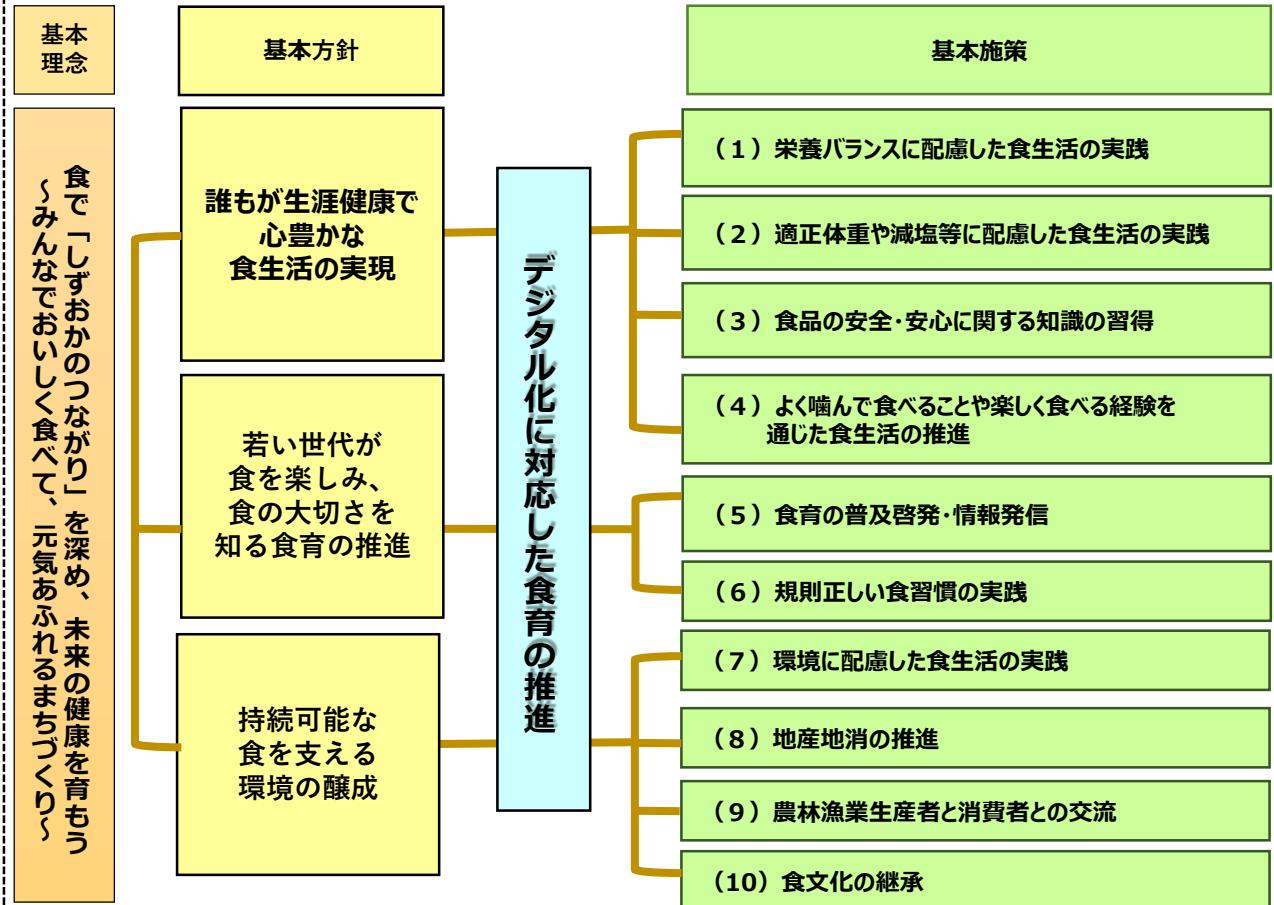
#### ③持続可能な食を支える環境の醸成

⇒環境に配慮した食生活の実践（食品ロス削減・エシカル消費など）や、農林漁業体験等により生産者と消費者との交流を通じて、食べ物や環境を大切に思う気持ちを育むことを目指します。地域に根ざした食育ボランティアと連携し、行事食・郷土食などの継承や、学校給食における地場産物の活用や啓発等、促進していきます。

12 食育を推進しよう ← 食育ピクトグラム（全12種類）  
食育の取組を分かりやすく発信



### （3）食育推進計画の体系



# 第4章 食育施策の展開

基本方針	課題	主な取組	対応策	目標指標											
心豊かな食生活の実現 誰もが生涯健康で	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食や昼食において、主菜・副菜が不足</li> <li>高齢者の夕食において、主食を控える割合が増加</li> <li>昼食においては、自分の好みに偏った外食、中食を利用している市民が多い傾向</li> </ul>	(1) 栄養バランスに配慮した食生活の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>低栄養予防や食事バランスガイドの重要性について調理等を通して学ぶ教室やイベントの開催</li> <li>健康に配慮したメニューの提供をする飲食店を増やし、自然に健康になれる食環境づくりを推進 <span style="background-color: #FFD700;">新規</span></li> </ul>	<p>現状値(R4) <span style="float: right;">目標値(R12)</span></p> <p><b>主食・主菜・副菜を合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合</b> 49.3% → <b>60%以上</b></p> <p><b>主食・主菜・副菜を合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合</b> 34.9% → <b>50%以上</b></p>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>偏った栄養摂取や不規則な食事などの乱れによる肥満や痩身傾向</li> <li>野菜、果物の摂取不足や塩分摂取の過剰傾向</li> </ul>	(2) 適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>高血圧予防、高血糖予防、高コレステロール予防編のテーマ別に、年代に応じた食事の内容や量、自身の適正体重について知り、調理実習、試食を通じた体験型の教室を開催</li> <li>生活習慣病予防に重点を置き行動変容に向けた個別相談の実施</li> <li>栄養成分表示のある飲食店を増やす為のPRを実施</li> <li>家庭で実践できる減塩料理教室の開催</li> <li>肥満傾向の児童生徒に対し、希望の有無による個別相談の実施</li> </ul>	<p>1日あたりの食塩摂取量の平均値 ※現状値は国の値 10.1g → <b>8.0g以下</b></p> <p>1日あたりの野菜摂取量の平均値 ※現状値は国の値 280.5g → <b>350g以上</b></p> <p>1日あたりの果物摂取量100g未満の市民の割合 ※現状値は国の値 61.6% → <b>30%以下</b></p> <p>女性（20～30歳代）のやせ（低体重）の割合 15.3% → <b>15%未満</b></p> <p>生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合 66.1% → <b>75%以上</b></p>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合の鈍化</li> </ul>	(3) 食品の安全・安心に関する知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校で食中毒や添加物等についての出前講座の実施</li> <li>給食施設における給食従事者の資質向上のための講習会の開催</li> </ul>	<p>食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合 63.9% → <b>70%以上</b></p>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な歯科健診受診率の向上</li> <li>共食（家族や友人等と会話を楽しみながら食べる食事）の減少</li> </ul>	(4) よく噛んで食べることや、楽しく食べる経験を通じた食生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒を対象とした食に関する指導、こども園等においてよく噛むことについての指導を実施</li> <li>歯科衛生士による歯みがき巡回指導や歯周病検診の実施</li> <li>共食の場を増やす“子ども食堂”や、シニア世代がお茶を飲みながら自由に話をする“シニアカフェ”の開催 <span style="background-color: #FFD700;">新規</span></li> </ul>	<p>毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合 66.8% → <b>85%以上</b></p> <p>定期的に歯科健診を受診している市民の割合 57.5% → <b>85%以上</b></p> <p>ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合 39.9% → <b>45%以上</b></p>											
	食の大切さを知る食育の推進 若い世代が食を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育に関心を持つ若い世代の減少</li> </ul>	(5) 食育の普及啓発・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>「毎年6月は食育月間」「毎月19日は食育の日」の食に関する展示や庁舎内放送、SNS等での情報発信</li> <li>児童館等で食育ボランティアによる食育キャンペーンの実施</li> <li>小中学校における食に関する指導や学校給食の献立を通して、食や生活に関する基礎を学べる学校給食ウェブサイトの開設 <span style="background-color: #FFD700;">新規</span></li> </ul>	<p>食育に関心を持つ若い世代の割合 58.7% → <b>85%以上</b></p> <p>食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合 46.3% → <b>80%以上</b></p>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代において、栄養バランスのとれた食事、規則正しい食習慣、女性のやせ、朝食の重要性への意識などの食に関する課題が他年代と比べて多い傾向</li> </ul>	(6) 規則正しい食習慣の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養教諭等によるチーム・ティーチング授業の実施</li> <li>市内の大学と連携し、学校の食堂等にて、体内状況を「見える化」する健康機器を用いた測定会や野菜料理の試食等を通して若い世代の食問題を考える食育教室の開催 <span style="background-color: #FFD700;">新規</span></li> </ul>	<p>毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合 66.8% → <b>85%以上</b></p> <p>朝食を欠食する若い世代の割合</p> <table border="1"> <tr><td>学童期</td><td>4.2%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>思春期</td><td>17.2%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>20歳代</td><td>29.9%</td><td>25%以下</td></tr> <tr><td>30歳代</td><td>22.3%</td><td>20%以下</td></tr> </table> <p>主食・主菜・副菜を合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合 34.9% → <b>50%以上</b></p>	学童期	4.2%	0%	思春期	17.2%	0%	20歳代	29.9%	25%以下	30歳代	22.3%	20%以下
学童期	4.2%	0%													
思春期	17.2%	0%													
20歳代	29.9%	25%以下													
30歳代	22.3%	20%以下													
持続可能な食を支える環境の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した農林水産物、食品について意識し、選ぶ市民の増加が必要</li> <li>食品ロス削減への取組をする市民の更なる増加が必要</li> </ul>	(7) 環境に配慮した食生活の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ減量啓発講座の開催や30・10運動の推進</li> <li>フードドライブの啓発及び推進</li> <li>環境に優しい調理法などを教えるスマートクッキングの開催</li> </ul>	<p>環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 44.7% → <b>65%以上</b></p> <p>食品ロス削減のために行動をしている市民の割合 61.2% → <b>75%以上</b></p>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>静岡県農林水産物の認知度の向上</li> <li>静岡市で生産された物を日頃から購入できる機会の増加が必要</li> </ul>	(8) 地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食で地場産物を使用する「ふるさと給食」「ふるさと週間」や「わくわく給食」の実施 <span style="background-color: #FFD700;">新規</span></li> <li>地場産物をPRするウェブサイトの開設</li> </ul>	<p>地元（静岡市）で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合 21.0% → <b>30%以上</b></p>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>農林漁業生産者と消費者の交流の機会の不足</li> </ul>	(9) 農林漁業生産者と消費者との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係団体と連携し、農林漁業を疑似体験する体験会の開催</li> <li>小中学生の親子を対象に漁業や競りの様子、水産加工工場の見学会の開催</li> </ul>	<p>農林漁業体験をしたことがある市民の割合 31.9% → <b>40%以上</b></p>											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などの継承の不足</li> <li>茶葉から入れた緑茶を飲む市民の減少</li> </ul>	(10) 食文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生を対象に、日本茶インストラクターによる“お茶の美味しい入れ方と、お茶のまち静岡市について学ぶ授業を実施</li> <li>伝統的な料理や作法などについて体験する教室の開催</li> <li>食育ボランティア人材を増やすために養成講座を開催 <span style="background-color: #FFD700;">新規</span></li> <li>食育教室の講師を派遣する食育応援団の実施</li> </ul>	<p>食育の推進に関わるボランティア団体等において活動する市民の数 1,269人 → <b>1,400人以上</b></p> <p>地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合 28.2% → <b>35%以上</b></p> <p>郷土食・伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 - → <b>30%以上</b></p> <p>茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合 40.8% → <b>60%以上</b></p>											